

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自ら課題を探し、解決していこうとする子どもの育成

喜来小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 中西 千陽	委員 2年担任:橋本佳那子 3年担任:大和史代 6年担任:増田ひとみ 専科:渡邊昌代 特別支援学級:岡谷あかね・伊賀夕希子
------------------	--

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては最後まで真面目に取り組むことができる。 ●基礎学力が低く、語彙も少ないため、問題を読み取る力や文章で表現する力が弱い。	・読み・書き・計算など、様々な学習の基礎となる知識や技能が身に付いている。 ・語彙を増やし、正確に文章を読んだり書いたりすることができる。	・ドリルや小テスト等に継続的に取り組み、基礎学力の向上を図る。 ・読書活動の充実、家庭読書の推進、新聞の活用等によって語彙を増やし、読む力を育成する。 ・自分の考えを文章で書いて表現する機会を多く設定する。	・基礎学力の定着を引き続き図りながら、応用力を高めるため、活用問題にも取り組む。 ・初発の文に慣れたり、語彙を増やしたりするためにも、新聞を活用した学習に引き続き取り組む。	・計算力・漢字力の一定の定着は見られたが、基礎的な内容の理解が難しい児童もいる。文章を書く力については、まだ弱い。 ・読書や新聞に興味をもつ児童も増えてきたが、個人差が大きい。	・引き続き、繰り返し学習を取り入れながら、表現力・文章力を高める方策が必要である。 ・T2体制など、個別指導の体制を充実させながら、児童の学力を向上させる取組が必要である。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループでは自分の意見を伝えられる児童が多い。 ●教師や友達の話をしっかり聞き、それをふまえて自分の考えや思いを、根拠を明らかにして表現することに課題がある。	・全体の中でも自分の考えや思いを表現できる。 ・相手や目的に応じて、根拠を明らかにしながら自分の考えを進んで表現することができる。	・少人数での話し合いや、全体での発表の場を計画的に設け、一人一人が自分の考えをアウトプットできる場を設定する。 ・ホワイトボードやICT機器を効果的に活用した発表や話し合い活動を設定する。	・話型の確認をする。 ・自分の意見をまとめてから、伝える場を設ける。少人数から発表への形式は継続していく。 ・ICT機器の効果的な活用方法について研修や情報交換を行う。	・少人数から全体への発表形式にすることで、発言することに対する抵抗感は減っている。 ・ICTを活用することで、話し合いが活発になったが、個々の操作スキルの個人差が大きい。	・ICT支援員とも協力して、タブレットの操作スキルの習得を目指す。 ・話し合いの手引きを用いたり、話型の訓練を行ったりしながら、人前で話す経験を積んでいく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習や生活のきまりを守って学校生活を送ることができている児童が多い。 ●進んで課題を見つけ、追求しようとする意欲が乏しく、家庭での主体的学習の習慣が身に付いていない。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習課題に気づき、それを解決するために、計画を立てて実践することができる。	・授業では学んだことを振り返る場を設定し、課題解決の達成感や次の問題意識をもたせる。 ・自主学習の取組を教室に掲示し、学びを共有することで、個人の学びの充実を図る。	・次時に向けて児童が自分の目標を立てられるような振り返りを行う。 ・自主学習の進め方や手順を再確認し、自分の課題に合った学びに取り組めるようにする。	・目的意識をもったり、互いに教え合ったりしながら取り組む児童の姿が見られる。 ・自分で課題を設定し、取り組む児童が増えてきているが、マンネリ化や、新しいことに挑戦しようとする意欲が低い。	・自分の課題を分析するような時間を設けたり、生活と結び付けるなど児童の主体性を高める仕掛けづくりを行ったりすることが必要である。 ・自己肯定感を高め、主体的に取り組める児童を育成するための指導の見直しが必要である。

令和5年度 学力向上ロードマップ

